

## 41 県内の苗字・家紋調査における基本資料



### 『栃木の苗字と家紋』

(上巻・下巻)

遅沢俊郎／著

下野新聞社

1984～1989(昭和 59 年～平成元年)

22cm

※絶版もしくは重版未定

1976 年(昭和 51 年)から下野新聞に連載された「栃木の苗字と家紋」を単行本化した資料。県内の苗字・家紋調査の基本資料。著者の遅沢氏は、大田原市出身の苗字・家紋研究家で、下野姓氏家系研究会を創立・主宰した。

県内の代表姓 1,677 点を取り上げ、県内における分布や一族の起こり・歴史について、現地での聞き取り調査を中心に解説しており、地域に伝わる伝承まで幅広く収録。同姓でも家紋が異なる場合は、現地調査で実在した家紋を収録・掲載している。なお、希少姓の調査などで電話帳を活用しているのも特徴的。

各巻末には家紋索引を収録し、紋形別に苗字の調査が可能。

### レファレンス

【請求記号 : T288/76】

## 43 偉人の功績を伝える遺稿集



### 『蒲生君平遺稿拾遺』

高浜二郎／著

鎔金研究所

1962(昭和 37 年)

118p 18cm

※絶版もしくは重版未定

蒲生君平は江戸時代の儒学者で、天皇の墓を調査した『山陵志』などを執筆し、その優れた功績により、林子平・高山彦九郎と共に「寛政の三奇人」と称されることがある。

本書は、蒲生君平の自筆原稿などを編集したものに、編著者が解説を付している。編著者の高浜氏は歌人である傍ら、蒲生君平の研究活動に取り組み、その功績により 1955 年(昭和 30 年)に栃木県文化功労者表彰を受章している。

なお、蒲生君平に関する図書は数多く出版されており、『蒲生君平 熱血の古代探求者』(☆40) のほか、近年は『蒲生君平』(没後二百年祭記念実行委員会／編 2013) や『蒲生君平の『山陵志』撰述の意義』(阿部邦男／著 皇學館大学出版部 2013) が刊行されている。

### 貸 出

【請求記号 : T289/か 1/4】

## 42 中世の下野国における名家「宇都宮氏」を知るための一冊



### 『下野・宇都宮一族』

七宮津三／著

新人物往来社

2006(平成 18 年)

281p 20cm

※絶版もしくは重版未定

新人物往来社が手掛ける、中世に繁栄した一族を取り挙げた「一族シリーズ」の一冊。栃木県の中世を語る上では欠かせない宇都宮氏に焦点を当てたものである。

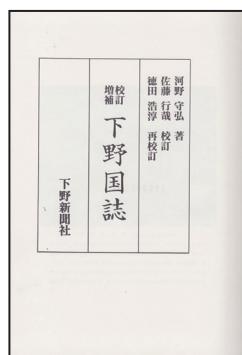
第 1 章では、鎌倉期に歌人として優れた人物を輩出した宇都宮氏が、京都まで広く知られていたことを描く。その後、豊臣秀吉の手による改易で下野国を追われるまでの数百年間、宇都宮氏が地域の名族として名を馳せるまでの道のりを明らかにしていく。巻末には、9 世紀から 17 世紀までの主な出来事を記した年表が付されている。

著者の七宮氏は中世史を研究し、本シリーズでも『下野小山・結城一族』(2005) を執筆しているほか、多数の著作を出版している。

### 貸 出

【請求記号 : T288/130】

## 44 江戸時代末期に編さんされた 下野国の地誌(翻刻版)



### 『下野国誌』

河野守弘／著、佐藤行哉／校訂

下野新聞社

1989(昭和 64 年)

599p 22cm

※絶版もしくは重版未定

江戸時代末期、下野国芳賀郡の歴史家・河野守弘氏が編さん・上梓した下野国の地誌。初版本は全 12 巻からなるが、本資料は、それを 1 冊に編集した翻刻本。郷土史家の徳田浩淳氏が、1968 年(昭和 43 年)刊行の活字資料に校訂を加えた。

郷名(地名)や名勝、神社仏閣、古城、名産などの類別に、下野国の主要な事物を挙げて説明している。河野氏自身による解説のほか、『古事記』をはじめとする古今の資料から、関連する記述を引用し紹介している。また、第 9～11 卷「古城盛衰」では、宇都宮氏・那須氏など、収録した 19 の城について、主な城主の系図を収録。

当館ではほかに、下野新聞社版(1968)及び下野国誌刊行会版(1916、全 12 冊)を所蔵している。

### 貸 出

【請求記号 : T290/117】

45

『角川日本地名大辞典』と並ぶ、栃木の  
地名・歴史を調べる基本資料



『栃木県の地名  
日本歴史地名大系 9』

平凡社  
1988(昭和 63 年)  
849p 27cm

「日本歴史地名大系」は全 50 卷の地名辞典で、第 9 卷が『栃木県の地名』である。「角川日本地名大辞典」(☆46) は五十音順に地名を配列しているが、本資料は刊行当時の行政区画に沿って項目が立てられている。また、特定の地名について調べる場合には「五十音順索引」が役立つ。

巻末の「文献解題」には、栃木県(下野国)に関する史料解説がある。活字本情報もあり、史料の本文を読むためのツールとして有効。

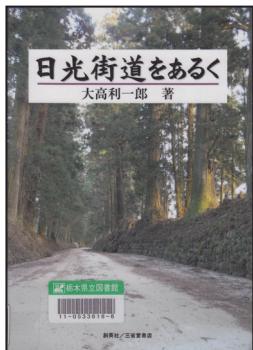
その他、1648 年～1988 年(慶安元年～昭和 63 年)の地名の呼称の変遷がわかる「行政区画変遷・石高一覧」や、参謀本部陸軍部測量局(後の陸地測量部)が製作した地図(1887 年～1888 年(明治 20 年～21 年))を複製・調整した「輯製二十万分一図復刻版 栃木県全図」が収められている。

## レファレンス

【請求記号 : T290/118】

47

日光街道を実際に歩いてみたい人に  
お勧めの一冊



## 『日光街道をあるく』

大高利一郎／著  
創英社  
2009(平成 21 年)  
256p 21cm

1999 年(平成 11 年)刊行『日光街道』(のんぶる舎)の改題・改編。実際に日光街道を散策するときに役立つ資料。

東京・日本橋から日光までの日光街道全体を 18 のコースに分割し、コースごとに街道近辺の名所旧跡を写真を付して解説している。

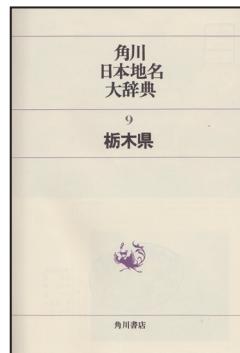
日本橋を出発して街道を北上するルート順にページが構成され、名所旧跡の解説はこのルートでの到着順に配列されている。さらに、現存する道路や目印を示した「現在の街道コースの辿り方」の説明に、その地域の江戸期の説明を織り交ぜたルート案内を随所に配し、実際に街道を歩く臨場感を味わえる構成となっている。また、写真や地図を多用し、ビジュアル的にも街道散策のイメージを想起させる工夫がされている。

## 貸 出

【請求記号 : T290/233/009】

46

通史的な地名調査に役立つ  
基本資料・栃木版



## 『角川日本地名大辞典 9

栃木県』

「角川日本地名大辞典」編纂委員会/編  
角川書店(現: KADOKAWA)  
1984(昭和 59 年)  
1462p 23cm  
※絶版もしくは重版未定

時代により変遷する地名を記録し、後世に伝える目的から計画・編さんされた地名辞典で、都道府県別に全 47 冊からなる。本書は、第 9 卷の栃木県。

内容は、県全域の地理歴史を概説する「総説」と、「地名編」、「地誌編」、「資料編」に大別される。「地名編」が辞典部分で、古代・中世の国～駅、近世の藩～宿、近現代の県～大字のレベルまで項目を立てている。また、古くから存在する地名は、項目内に〔古代〕～〔近代〕の時代区分を設け、それぞれ解説を付している。「地誌編」では、刊行時の各自治体の現況・沿革・史跡などをまとめている。「資料編」は大愚狂人氏の資料(1917 年(大正 6 年))に基づいた「小字一覧」や、市町村沿革表などを収録している。

## レファレンス

【請求記号 : T290/197】

48

言わずと知れた観光ガイドブックの  
定番の一つ・栃木版



- ①『るるぶ栃木』
- ②『るるぶ日光那須鬼怒川塩原』  
J T B パブリッシング
- ①1993～(平成 5 年～)
- ②1987～(昭和 62 年～)  
26cm

観光ガイドブックの王道「るるぶ」の県内版は、『栃木』と『日光那須鬼怒川塩原』の 2 種が刊行されている。年刊。

①『栃木』では県内を 6 エリアに分け、観光スポットやご当地グルメ、お土産などを紹介。特にグルメ関係は、宇都宮餃子や佐野ラーメンなど、全国的にも名の知られたメニューのお勧め店を複数挙げ、写真や図を使って味の違いを解説している。また、②『日光那須鬼怒川塩原』は、この 4 地域に特化した詳細版である。

当館では、「るるぶ」や「まっふる」(昭文社)など観光ガイドブックの栃木県版を網羅的に収集しており、3 階地域資料室内「栃木県内の観光情報コーナー」に排架している。

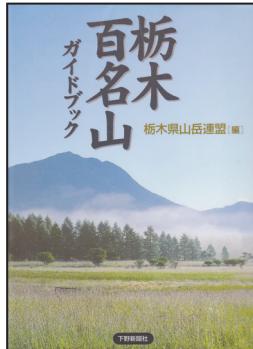
※①は 2001 年、②は 2000 年出版のものから所蔵

※未所蔵または館内利用の巻号あり

## 貸 出

【請求記号 : ①T290/241 ②T290/320】

## 49 栃木百名山を丁寧な解説と地図で わかりやすく紹介した登山ガイド



### 『栃木百名山ガイドブック』

栃木県山岳連盟／編

下野新聞社

2005(平成 17 年)

421p 21cm

※絶版もしくは重版未定

「栃木百名山」は、下野新聞創刊 120 周年記念事業として選定委員会を組織し、楽しい山、懐かしい山、景観の優れた山、内外に誇れる山を選考基準に 2004 年(平成 16 年)1 月 1 日に選定され、下野新聞紙上で紹介された。

一つの山を見開き 4 ページで、登山口のアプローチから頂上、終着点まで、丁寧に解説している。初心者から経験者までのランク分け、登山適期・コースタイム・ワンポイントアドバイスがあり、実用性が高い。2012 年(平成 24 年)に改訂新版が発行された。オールカラーで見開き 2 ページのコンパクトな構成で、五十音順、標高順、コースタイム順の索引が追加された。

貸 出

【請求記号 : T290/292】

## 51 人気お笑い芸人が、ジョークを交えて 栃木県の魅力を全力で紹介

### 『レッツゴー！栃木 U字工事の熱血お国自慢』

U字工事／著

ランダムハウス講談社

2009(平成 21 年)

211p 19cm

※絶版もしくは重版未定

栃木弁を活かした漫才で、県内外を問わず人気のコンビが手掛けた栃木県の魅力を紹介した図書。テレビ・ラジオといった各種メディアに出演する際、数多くの県内観光スポット・飲食店を訪れた経験、そして取材を通して習得した栃木県の知識を活かして執筆されている。

栃木県の実力・実績を誇る第 1 章にはじまり、第 2 章では関東各県と栃木県を比較、そして県民も知らないかもしれない穴場スポットを紹介する第 3 章まで、ジェットコースターのように駆け抜けながら栃木県の魅力をアピールしている。

栃木県出身の芸能人による著書は、当館でも多く所蔵しており、著者と本書で対談しているお笑いトリオ・森三中の大島美幸氏の作品もある。

貸 出

【請求記号 : T290/312】

## 50 散歩しながら、栃木県の歴史を 学習できるガイドブック



### 『栃木県の歴史散歩』

歴史散歩 9』

栃木県歴史散歩編集委員会／編

山川出版社

2007(平成 19 年)

350p 19cm

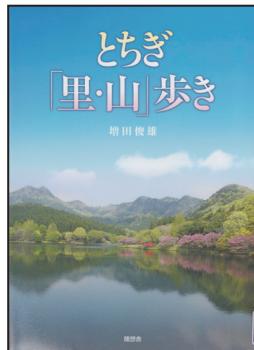
歴史に関する様々な出版物を出版している山川出版社による「歴史散歩」シリーズは、地図や交通情報が丁寧に記述されているため、観光ガイドとして読むことができるに加え、文化財や史跡に関する詳細な解説によって地域史を学ぶための教科書としても活用できる。また、散歩に持ち運びしやすいサイズを意識し、通常の単行本よりも一回りコンパクトに仕上がっている。

栃木県版である本書は、「宇都宮とその周辺」、「那珂川に沿って」など県内を 8 つのテーマに設定し、栃木県の歴史を学ぶことができる。各章のはじめには、参考となる散歩のモデルコースが示されており、これに加えてコース周辺の名所について丁寧な説明が書かれている。

貸 出

【請求記号 : T290/302】

## 52 シニア世代向けの県内の ハイキングコース・ガイド



### 『とちぎ「里・山」歩き』

増田俊雄／著

随想舎

2010(平成 22 年)

151p 26cm

※絶版もしくは重版未定

とちぎ健康福祉協会発行の情報誌『いきいきとちぎ』の好評連載を再編集して出版したもの。著者は宇都宮登山クラブの初代会長で、県内の山歩きに造詣が深く、『栃木の山 140』(宇都宮ハイキングクラブ／編 随想舎 2004) など多数の著書がある。

本書は 32 コースからなる県内のハイキングガイドで、シニア世代の読者がそれぞれの体力や季節に応じて好みのコースを選ぶことができるよう工夫されている。各コースの紹介は、自然の風景を切り取った美しい写真と臨場感溢れる詳細なレポートで構成されており、紙上でも現地を訪れたかのようなハイキング気分を味わうことができる。登山初心者のイメージトレーニングにも役立つ。

貸 出

【請求記号 : T290/319】

## 53 県内全域の観光プランを提案するガイドブック



『とちぎの歩き方 日光・那須・鬼怒川・宇都宮・益子・佐野・足利 2012-13』

地球の歩き方編集室／著作編集

ダイヤモンド・ビッグ社

2011(平成 23 年)

124p 26cm

※絶版もしくは重版未定

ダイヤモンド・ビッグ社が刊行する『地球の歩き方』は、世界中の国・地域別に、旅行中の必須事項をまとめたハンディなガイドブックだが、本資料は、その国内シリーズ（ムック版）のうち、現在唯一の栃木版である。

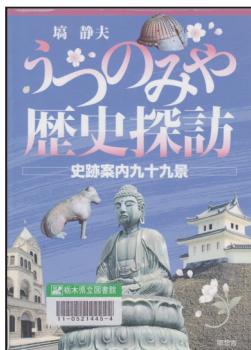
県内の主要な観光地を網羅し、観光施設や店舗など 492 件を紹介。「とちぎでしたい 20 のこと」のページでは、旅行で外せない食や見どころを、旅マイスターが解説。また、観光スポットを巧みに織り込んだ「観光モデルプラン」を多数紹介しており、県内の移動で役立つ「とちぎ交通インフォメーション」を巻末に収録している。

当館では、栃木の観光ガイドを幅広く収集している。「るるぶ」(☆48) の項も参照のこと。

貸 出

【請求記号 : T290/330】

## 55 現在の宇都宮市に残る史跡を辿る案内書



『うつのみや歴史探訪  
史跡案内九十九景』

塙静夫／著

随想舎

2008(平成 20 年)

287p 21cm

宇都宮市にある史跡の中から、99ヶ所をピックアップし、エリアごとに紹介しているのが本書である。1994年(平成6年)に出版された『うつのみやの歴史再発見』を改訂したものであり、2007年(平成19年)に合併した上河内町と河内町の情報が追加された。全ページフルカラー印刷によりビジュアルが充実していることに加え、豊富な参考文献に裏付けられた詳細な解説が掲載されている。

著者の塙氏は栃木県における考古学研究の第一人者として知られ、『栃木県の考古学』(吉川弘文館 1972) や『下野国の古代文化』(第一法規出版 1981) など多くの著作がある。また、これまでの考古学研究が評価され、平成12年に栃木県文化功労者表彰を受章している。

貸 出

【請求記号 : T291/31】

## 54 栃木県のあらゆる事象について解説をまとめた事典



『栃木県大百科事典』

栃木県大百科事典刊行会／編

栃木県大百科事典刊行会

1980(昭和 55 年)

1029p 図版 32 枚 28cm

※絶版もしくは重版未定

栃木県の政治や産業をはじめ、栃木県ならではの事物、本県に関わる事項など、幅広く収録し解説した事典。日光に関わる物事については、別途「日光特集」を設けている。

卷末には、旧石器時代から 1979 年(昭和 54 年)までの栃木県の年表、市町村別の新旧の町名が分かる地名総覧、県内の主な峠・河川・湖沼・瀑布、国・県指定文化財一覧、当館で本書の刊行当時所蔵していた主要参考図書目録、各項目内容の分野別・市町村別索引を設けている。

当館では、本県の歴史に関わるレファレンスにおいて、利用される機会が多い資料の一つである。

レファレンス

【請求記号 : T290/337】